

事業の名称

旧那珂湊二高利活用検討・提案及び地域活性化事業

〔事業責任者〕

(自治体等側)

ひたちなか市企画部企画調整課・課長 福地 佳子

(大学側)

茨城大学人文社会科学部・教授 伊藤 哲司

自治体との連携

連携先

ひたちなか市企画部企画調整課
フューチャーズミーティング

プロジェクト参加者

伊藤 哲司（茨城大学人文社会学部 教授:学生ワークショップのファシリテーター，利活用検討に対する助言）
フューチャーズミーティングメンバー（みなとwaiwaiクラブ，地元自治会等:利活用検討，利活用に資する企画の運営）
学生（茨城大学，常磐大学，キリスト教大学，東京大学，那珂湊高校:利活用検討，利活用に資する企画の運営）

プロジェクトの実施概要

①プロジェクトの目的

ひたちなか市内に所在する旧県立那珂湊第二高等学校（以下，湊二高とする）は，平成23年3月をもって閉校となった。その後，ひたちなか市内の複数の小中学校の建て替えに伴う代替校舎として暫定利用をしてきたが，それも平成29年度末，をもって終了する。

このため，平成30年度意向の本格的な利活用について，地域のニーズや地域が抱える課題を踏まえた利活用案を作成すべく，地域住民を中心とした利活用検討会議（フューチャーズミーティング）が立ち上がった。

一方で，那珂湊地域では，少子高齢化の進展や若者の転出等によって，若い世代の減少が進んで

いる。したがって，今後の本格的な利活用を実現するにあたり，若者を外から呼び込むことができるような施設にしていくためには，若者の視点を踏まえた利活用案を検討していくことが有効である。

そこで，本プロジェクトでは茨城大学とひたちなか市の連携を図り，学生と地域住民とが協働して，利活用案を作成し実現への目途を立てることを目的とする。

②連携の方法及び具体的な活動計画

学生ワークショップに参加した学生には，学生ならではの自由な発想で，できるだけ多くの利活用案を出してもらった。そして，ワークショップ後も湊二高の利活用に何らかの形で携わっていく意向のある学生にはフューチャーズミーティングにも参加してもらい，地域住民との活発な議論を通してよりよい利活用案を練ってもらうことにした。

とくに，学生自らが湊二高を拠点に活動できることや，地域住民やその他の利活用団体と一緒にできること（団体へのサポート含む），イベントの開催や多世代交流にする活動など，具体的なプランを立案し，2年目，3年目に，これらを学生自らが主体的に実践し，地域住民やその他各種団体等が行う活動等とあわせ地域の活性化につながる利活用を行っていく。

③期待される成果

学生ワークショップやフューチャーズミーティ

ングを通して練られた利活用案を、学生自らが実践していくことによって、湊二高を多世代で利活用していきたいという地域住民のニーズを満たす一助になる。

また、学生の企画するイベント等に参加した若者が、廃校利活用や多世代交流に興味・関心を持ち、新たに利活用に携わっていくことによって地域活性化の好循環を創出することができる。

さらに、学生が地域住民との交流や意見交換を通して、人間的に成長すると共に、学術的な研究等のヒントを得ることもつながるのではないかと考えられる。

プロジェクトの実施成果

①活動実績

＜湊二高利活用検討の経過＞

- 第1回学生ワークショップ (H28.11/20)
- 第1回フューチャーズミーティング (H29.2/26)
- 第2回フューチャーズミーティング (H29.3/25)
- 第3回フューチャーズミーティング (H29.4/22)
- 第4回フューチャーズミーティング (H29.5/21)
- 戦略的地域連携プロジェクト採択 (H29.6/8)
- 第2回学生ワークショップ (H29.6/11)
- 第5回フューチャーズミーティング (H29.6/20)
- 第6回フューチャーズミーティング (H29.7/18)
- 第7回フューチャーズミーティング (H29.8/7)
- 第8回フューチャーズミーティング (H29.8/22)
- 廃校利活用サークルの結成 (H29.8/24)
- 第3回学生ワークショップ、第9回フューチャーズミーティング (H29.9/23, 同日開催)
- 第10回フューチャーズミーティング (H29.10/19)

第11回フューチャーズミーティング (H29.12/17)

おいもカフェ (H29.12/23)

第12回フューチャーズミーティング (H30.1/13)

第4回学生ワークショップ (H30.2/12)

＜第2回学生ワークショップ＞

日 時：平成29年6月11日（日）

午後1時～午後6時

場 所：ひたちなか市役所防災会議室

参加者：学生26名（うち茨城大学生12名）

伊藤哲司（ファシリテーター）

ファシリテーター補佐1名

ひたちなか市企画調整課職員2名

第1回目の学生ワークショップでは、何の制約もつけずに、できるだけ多くのアイデアを出してもらったが、第2回目のワークショップでは、学生が自ら主体的に湊二高の運営に携わるという想定の下でアイデア出しを行い、グループワークを通して利活用案を検討した。ワークショップ後、茨城大学生6名が湊二高でグランピングを実施する意向を示した。



図1. 第2回学生ワークショップの様子

＜廃校利活用サークルの結成＞

第2回学生ワークショップ後に、湊二高でグランピングを実施する意向を示した学生たちを中心に、廃校利活用サークルが結成された。

その後、第3回学生ワークショップ時には、本プロジェクトの参加者である伊藤哲司が、当該サークルの顧問になることが決定し、茨城大学の公式サークルとなった。サークルに所属している学生数は15名である（平成30年2月8日時点）。

＜第3回学生ワークショップ＞

日 時：平成29年9月23日（日）
 午後1時～午後5時（学生のみ）
 午後6時～午後8時（学生と地域住民）
 場 所：ひたちなか市役所防災会議室
 参加者：学生8名（うち茨城大学生4名）
 伊藤哲司（ファシリテーター）
 ひたちなか市企画調整課職員2名

第1・2回目の学生ワークショップで出たアイデアの中から、実施主体となって実際に湊二高跡地で活動していく意向のある学生を募った。フューチャーズミーティングで作成している「湊二高利活用案」の様式に沿って学生プランを作成し、そのプランをフューチャーズミーティングに提案することとした。



図2. 第3回学生ワークショップの様子

同日、フューチャーズミーティングのメンバーに対して、学生プランを説明し、「グランピング」と「学生寺子屋」が「湊二高利活用案」に盛り込まれた。



図3. 第9回フューチャーズミーティングの様子

学生と地域住民によって作成された「湊二高利活用案」をもとに、市の内部でも湊二高の利活用について検討が進められた。



図4. 湊二高利活用案概要

＜おいもカフェ＞

日 時：平成29年12月23日（土）
 午後1時～午後5時
 場 所：那珂湊コミュニティセンター
 参加者：小学生10名

高校生 1名
 小学生の保護者 5名
 高校生会 5名
 茨城大学生 10名
 フューチャーズミーティングメンバー
 25名
 那珂湊二高の卒業生 2名
 ひたちなか市企画調整課職員 2名

学生ワークショップのメンバーが中心となって立ち上げた廃校利活用サークル「High！ School」が、平成30年度以降の旧那珂湊二高の利活用を見据え、プレイメントとして、学生オリジナルのコーヒーと旬のさつまいもを使った焼き芋を楽しむイベント「おいもカフェ」を開催した。当日は、地域の小学生からお年寄りまで総勢60名が、多世代交流を通して親睦を深めた。

- ・ 2種類のコーヒー豆に対し、3通りの入れ方（①水出し②ペーパードリップ③コーヒーメーカー）を行い、コーヒー豆や入れ方の違いによる飲み比べをしながらコーヒーを味わった。
- ・ さつまいもはフューチャーズミーティングメンバーのさつまいも農家の方から約100本を譲ってもらい、焼き芋を味わった。
- ・ 4, 5人のチームに分かれて、チーム対抗戦のクイズ大会を開催した。



図5. おいもカフェの集合写真



図6. 平成29年12月27日の茨城新聞

<第4回学生ワークショップ>

日 時：平成30年2月12日（月）

午後1時～午後4時

場 所：ふぁみりこらぼ

参加者：茨城大学生7名

高校生1名

伊藤哲司

外部講師2名

フューチャーズミーティングメンバー
11名

民宿満州屋1名

ひたちなか市企画調整課職員2名

プレイメントであるおいもカフェを終えた廃校利活用サークルの「High！ School」が、最終的な目標に掲げているグランピングの実現に向けて、廃校を宿泊施設として利活用している「くまの木里の暮らし（栃木県塩谷郡塩谷町熊ノ木802）」と「昭和ふるさと村（栃木県芳賀郡茂木町木幡252）」から、それぞれ講師を1名ずつ招聘し、講演会を開催した。講演会では、利活用に至った経緯や事業内容、管理運営についての詳細な話を聞くことができた。

当日の会場準備や受付、湊二高利活用案に関する概要説明および司会進行は全て学生が務め、ワークショップを成功に導いた。



図7. 第4回学生ワークショップの様子

募っていく。今後さらに数年にわたって進めるプロジェクトとなりうるが、学生たちは代替わりをしていくため、その中でも継続が図れる体制を維持していくことが課題である。

②プロジェクトの達成状況

本プロジェクトは、当初、学生から利活用に対する新たな提案をしてもらうことを目的に始まったものであるが、学生がプロジェクトを進めていく中で、地域住民と協働して「湊二高利活用案」を作成したほか、自ら主体的に利活用に携わっていきたいと考える学生たちによってサークルが組織された。さらに、来年度予定しているグランピングの実施に先立つイベントとして、「おいもカフェ」を開催することができたほか、第4回学生ワークショップにおいては、学生が主体的にワークショップの企画・運営や外部との連絡調整を行い、外部講師も招聘するなど、プロジェクトを進めるうちに、学生の取組意欲がより積極的に変化し、当初の計画を上回る成果をあげることができたと言える。

③今後の計画と課題

来年度のグランピングの実現に向けて、本格的な検討を更に進めていく必要があるとともに、おいもカフェのように実現可能性の高いイベントを実施しながら、段階的に計画を進めていく必要がある。

また、学生の利活用プランを今後永続的に進めていくためには、学生の継続した参画が必要になるが、そのためにも、廃校利活用サークルをいかに存続させていくかも課題となる。引き続き、SNSでのサークル活動の周知や、学生ワークショップの開催を通して新たに参画する学生を